

みなさんおはようございます。私は現代風リアル桃太郎という話を紹介したいと思います。登場人物は、桃太郎、おばあさん、サル、イヌ、キジ、校長です。では、始めます。

むかしむかし…ではなく、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいました。ある日、おばあさんは川に趣味のフィッシングに出掛けました。

「あら、奥様じゃないの」

「ねえねえ、奥様はお聞きになりました？ この前、川に大きな桃が流れてきたっていう話」

どうやらその桃は市役所が保管しているそうですが、おばあさんは職員に上手く言って、桃を横流ししてもらいました。

「これで3日は桃が食べられるわ」

そして食べようと思って包丁で切ってみると、なんと中からイケメンな男の子が出てきました。

「やった！ この子をジャニーズに入れたら金儲けできるわ！」

おばあさん only で大喜びーどうやら声が裏返って少女のようになったのでは…うっ
あら、失礼いたしました。

何となく、おじいさんは勝手に『桃太郎』と名付けました。

その後、桃太郎はついに中学生になりました。

ちょうどそのころ、毎日宿題を出す『教師』という名の鬼に、桃太郎は苦しめられていました。

そんなある日、桃太郎は言いました。

「俺さ、鬼ヶ島行って悪い鬼退治してくるわ。 悪いけどキビダンゴ作っといてや」

桃太郎は関東地方に住んでいるのに関西弁が染みついていた。

「やれやれ、ほんまに中二病は困ったわ」と思って、おばあさんは夕食の残り物でキビダンゴを作りました。

道を歩いていると、桃太郎はふと思いました。

——仲間が欲しい。

と。

そこで家来に定番の、サル、イヌ、キジを勧誘^{かんゆう}しに動物園に足を運びました。

いろいろがあって、とにかく桃太郎は仲間ができました。

近道すれば鬼ヶ島まで5分の距離を、『気分が出ない』という理由で遠回り^{とおまわり}することになりました。

よどがわ^{よどがわ}くんだり^{くんだり}、富士山を越え、疲れたので最後は飛行機とタクシーを利用して戻ってきました。

「これが鬼ヶ島か」

桃太郎はいつも通う学校の校舎^{こうしゃ}を見上げました。

この中には、いつも宿題を山ほど突き付けて生徒を恐怖^{おとしいれる}に陥れる^{じゃあくな}邪悪な鬼がいます。

おにがしま^{おにがしま}しょくいんしつ^{しょくいんしつ}では、生徒から『持ち物検査^{もちものけんさ}』で没収^{ぼっしゅう}したケータイや音楽プレイヤーが山積み^{やまづみ}されています。

「見ろ。アレが俺達から奪った財物^{ざいぶつ}の数々^{かずかず}だ」

サル：「桃太郎さん、お腹すいたー」

キジ：「誰かタバコ持ってない？」

イヌ：「なんて酷い。あんなの教師じゃありません！」

ドアをこっそりあけて盗み見^{ぬすみ}しながらコメントします。

まともにコメントしてくれるのはイヌだけです。

「それっ！ かかれー！！」

とうとう、桃太郎は決死^{けっし}の覚悟で職員室に飛び込みました。

「何をする気だ、桃太郎！！」

その時、鬼の親玉^{おやだま}、校長^{こうちょう}が出現^{しゅつげん}しました。

「出たな！ 鬼の親分^{おやぶん}めっ！！」

「職員室を滅茶苦茶にしておいて……お前の成績がどうなってもいいのか！！！」

「るせえ！ 俺は毎日毎日宿題を出されて困っている生徒の為に、てめえらを倒しに来たんだ！！」

「ほう、つまりは成績がどうなってもいいということか」

「やれるもんならやってみろ！ もし成績を下げでもしたら、校長が生活保護^{せいかつほご}を違法受給^{いはうじゅきゅう}してたことをバラしてやる！！」

桃太郎に証拠書類^{しょうこしょるい}を突き付けられ、校長は狼狽^{ろうばい}しました。

「う、うむ。 降参^{こうさん}だ、桃太郎」

見事、桃太郎は没収されたスマホと音楽プレーヤーを取り返したのです。

そして彼は、職員室を去る際^{さるさい}にこう言ったのです。

「戦いは、いつもむなしい」と。

めでたし、めでたーし？